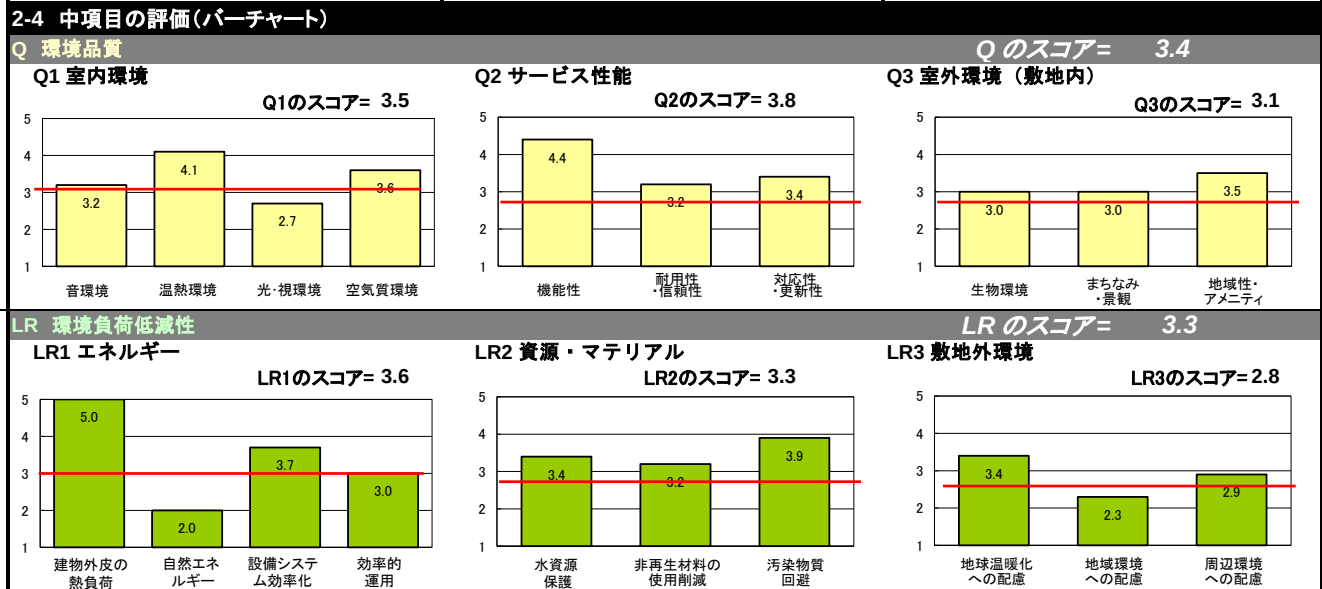
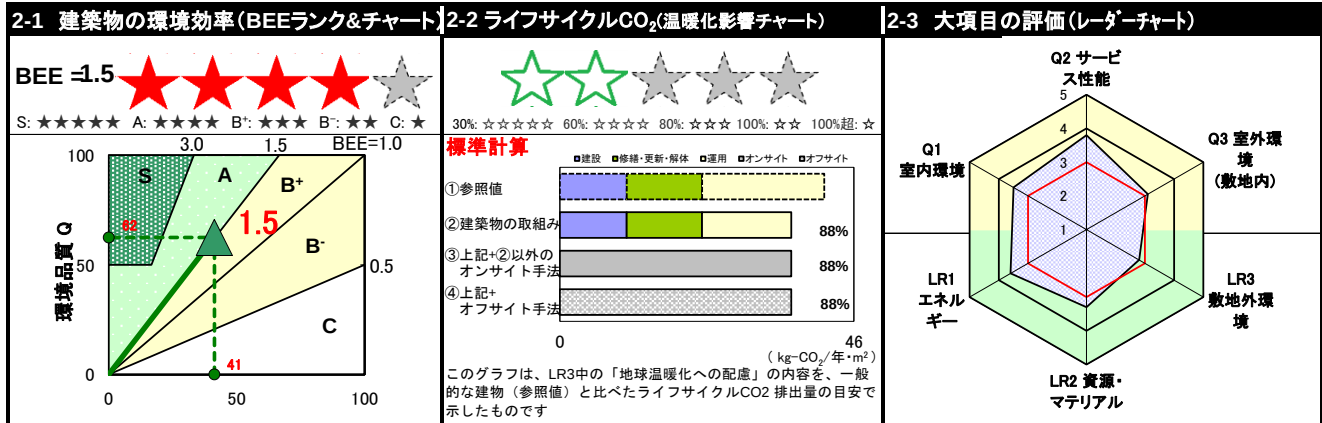
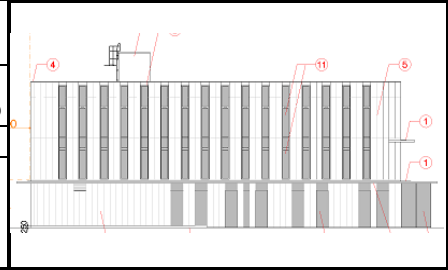


CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル 4章 建築物の環境性能評価とエネルギー効率 | 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	明和高等学校校舎等建築工事(音楽棟)	階数	地上3F
建設地	愛知県名古屋市中区白壁二丁目3201番	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	834 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,920 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2029年3月 予定	評価の実施日	2024年7月11日
敷地面積	33,929 m ²	作成者	
建築面積	1,384 m ²	確認日	2024年7月12日
延床面積	2,649 m ²	確認者	



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
室内環境やサービス性能に配慮している。 エネルギー消費量の削減に努め、省エネルギー性能への配慮を取り組んでいる。 ノンフロン断熱材を採用している。	特に無し。
Q1 室内環境 室温や湿度制御に優れている。 換気量の配慮をしている。 喫煙の制御があり、敷地内を禁煙としている。	Q3 室外環境 (敷地内) 空間・施設機能提供による地域貢献への配慮を行う
LR1 エネルギー 効率的運用により省エネルギー性に貢献している。	LR3 敷地外環境 エネルギー消費量の削減に努め、省エネルギー性能への配慮を取り組んでいる。
Q2 サービス性能 内装仕上げ材や空調給排水管の耐用年数の長い部材を採用している。 空間のゆとりを配慮している。	
LR2 資源・マテリアル 部材の再利用可能性向上への取組みでLGS下地やOAフロアを採用している。 有害物質を含まない材料の使用に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE® 名古屋

評価結果

重点項目スコア・結果シート

明和高等学校校舎等建築工事(音楽棟)

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.5
LR1	エネルギー	3.7	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.4	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.9
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.2
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.5



2. 自然共生

評価点 = 2.9



3. 循環型社会

評価点 = 3.2



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。